■ポーランド：原子力新設計画は今秋決定か

2017年8月21日付の報道によれば、ポーランドのTchorzewskiエネルギー相は原子力発電について、2030年までに150万kW、2040年までに450万kWの設備容量が必要になるという見解を明らかにした。それによれば、原子力発電所新設計画は今秋行われる閣議で議論され、エネルギー省が原子力開発に向けた資金調達案を示すとしている。これまでの報道によると、建設は中国企業が担うことが有力とされている。一方、コンサルティング会社の報告書によれば、文化的および法制面の違いから、中国より米国や日本が有利であるとの見方もある。